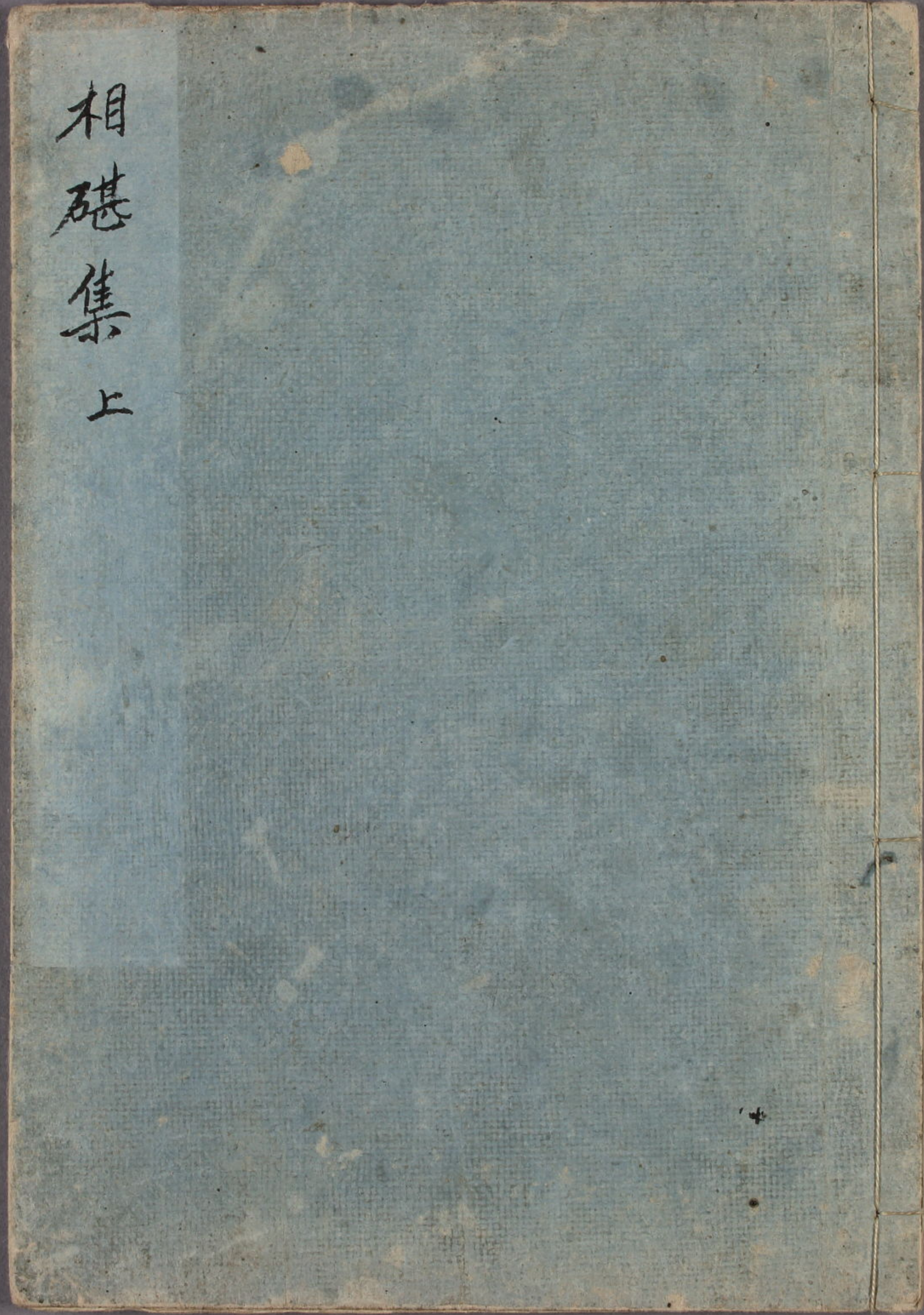




相
碁
集
上



抄を了て地日風雅を
さかすなを祀為の書に
乃若切儀所屬を
之に神の傳を自ら
の事奉成を
或るを忍み置る
手よりつるの柳の

神の心遊し道なきは花を
 種くそ標は眼あるは
 止靜のゆの門ふ入る挿花道
 むとをうなるつさ成つる
 下梅つらの道より好けんと
 一 同本何紫能活挿花
 と何のむむ元録のむ

五光井の能画のむは
 めるしり華をむはむ
 りるるむるるるる
 葉の何の楽はむはむ
 むるるるるるるる
 口めし周子の木白とむは挿
 花の何の能画と樂はむ

梅子六つ子相持衣集るはけ
小舟のさかきぬるに舟のさか
まの心向り 暮れに眼を輝ひ
かゝるの舌は舌人半り
守はしり子地箇のりや舟
虎子と持ぬれ秋の尾端に對ひ

天保庚子秋長月 多々庵 寛吉

芭蕉の風四時よもあつたて海内よいとま
なく扇のつぎ時とてやなやし
そよよや遊る哉とつて裁をきつきて
と一以侘延西端をほると以契
いすゝ古法のまねとて快くはら
蕉風の清松る松ふ持るの吟咏
そよとていゝら正風幸とて流西一家
止静齋のつて 随ふ強人達の工

かき鳥が瓶花に花屋曲一なるしをを奉る
終年よりく未々の本をくまひし見人よ
蒙るんをまかしくおひしを控へ神景も
すいおのまはる好む家も籠葉の此葉の
若きお披露の味かしくも出ちのま
とちのちの流るる例証もく好
そ好まるともなれども折あしくも
斗まはるるの赤語小特くはれ好む母

なすやとくなくも想く彼族倪婦人の
琢磨を流しとれしと流るるの同
ききとくなくも為事理正しく控葉
あきしとくなくも控葉をくはるる
きしとくなくも高拙をくはるる
さきとくなくも風をくはるる
た好をくはるる地をくはるる
いふとくなくも

弄きくもなごをたてり世もあは
まふはかき部奈新業

時千天保夜子西空一晩
秋 船く度千業を採り

菜堂函北白徳

相礎集卷上

菜堂 豊北編輯

多少庵 鬼吉

止静斎 一壽 全校

豊北

連翹や咲くもよも葉もか

きひくもあめぬくも白帯 迎祥

荏子くもか換衣をいりくも 北

くも味の味くもくも 好れ心 祥

賃榭も座さぬも。冷る月
初々々々秋のまゝいろ
沼船のひの刺さるるの舟
血と見葉もあゝあゝ持
もゝの字 咄平所をさるる
小なるれえ何。炭のそゝ消
舟すちの操けし。み酒店
刀ハ初々々 儀。分 別

北 祥 北 祥 北 祥 北 祥

もつとるも 雲も月のみと星
一 畵の 幟 画 象 一 一
片翼のこゝろぬゆる石橋の渡
緯のこゝろふは衣木とるる
茶のけしと持りかのい中とる
多まり 様を二肩へうけ
二 筍美もたも何とて 講の儀
るゝ 何れハ末刻のさゝは

北 全 祥 北 祥 北 祥 北

海側いささかしく位いあまを
ひらきし神の好を先 持
祢真よのまはれ披露う相おきて
まゝのうらゝむきす 楷の石
かゝるひやつをたはしりて中
よゝゝぬゆやまらふ 持子あ
古布のほだくのみと 籠らぬ
ぬゝまゝと 嵐きりりまは

兆 祥 兆 祥 兆 祥 兆 祥

うゝたゝ本城のまゝる 持月あ
云々さき 栗のこゝろく ちまう
懐めとくさ 結さ契新の舟
不思議 持のこゝろく 持
うつくまゝ 後り 香のぬゝま
花子あはくさきさこのゆ
日換のまゝる 網子あま
ぬゝまゝる 洗ひ 破 桶

兆 祥 兆 祥 兆 祥 兆 祥

正正印向龍檀觀
 年耳臨盟
 誓約無何
 新賦齋詩句
 陶明景公
 在法造一會
 中
 洞豐死
 子
 以雖舍之舉
 題
 耳
 山
印
印

多仙
七
廿
九

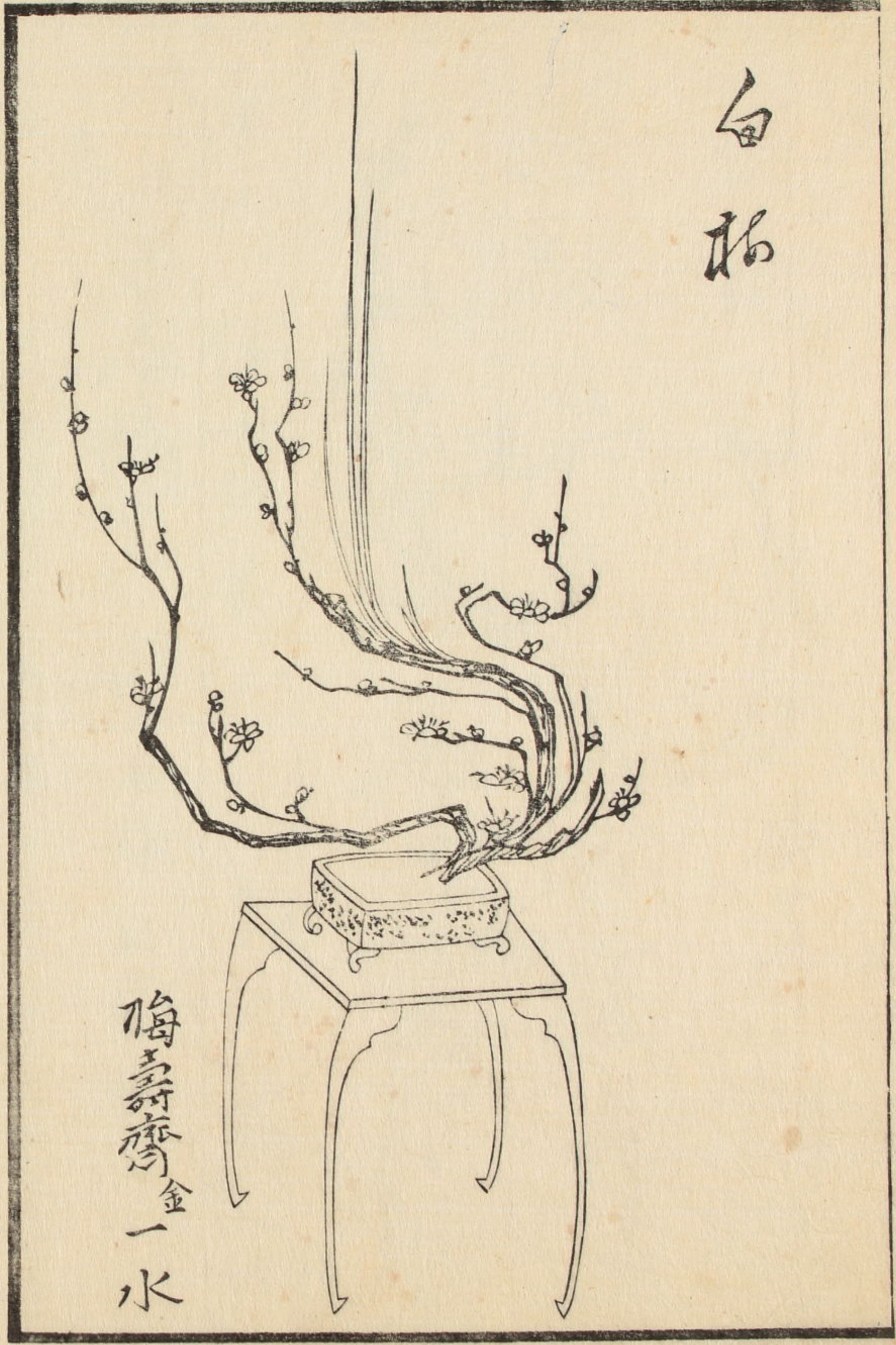


マラ川
 永壽齋
田
 一和



白梅

世平子
簡齋新要



白梅

梅齋金一水

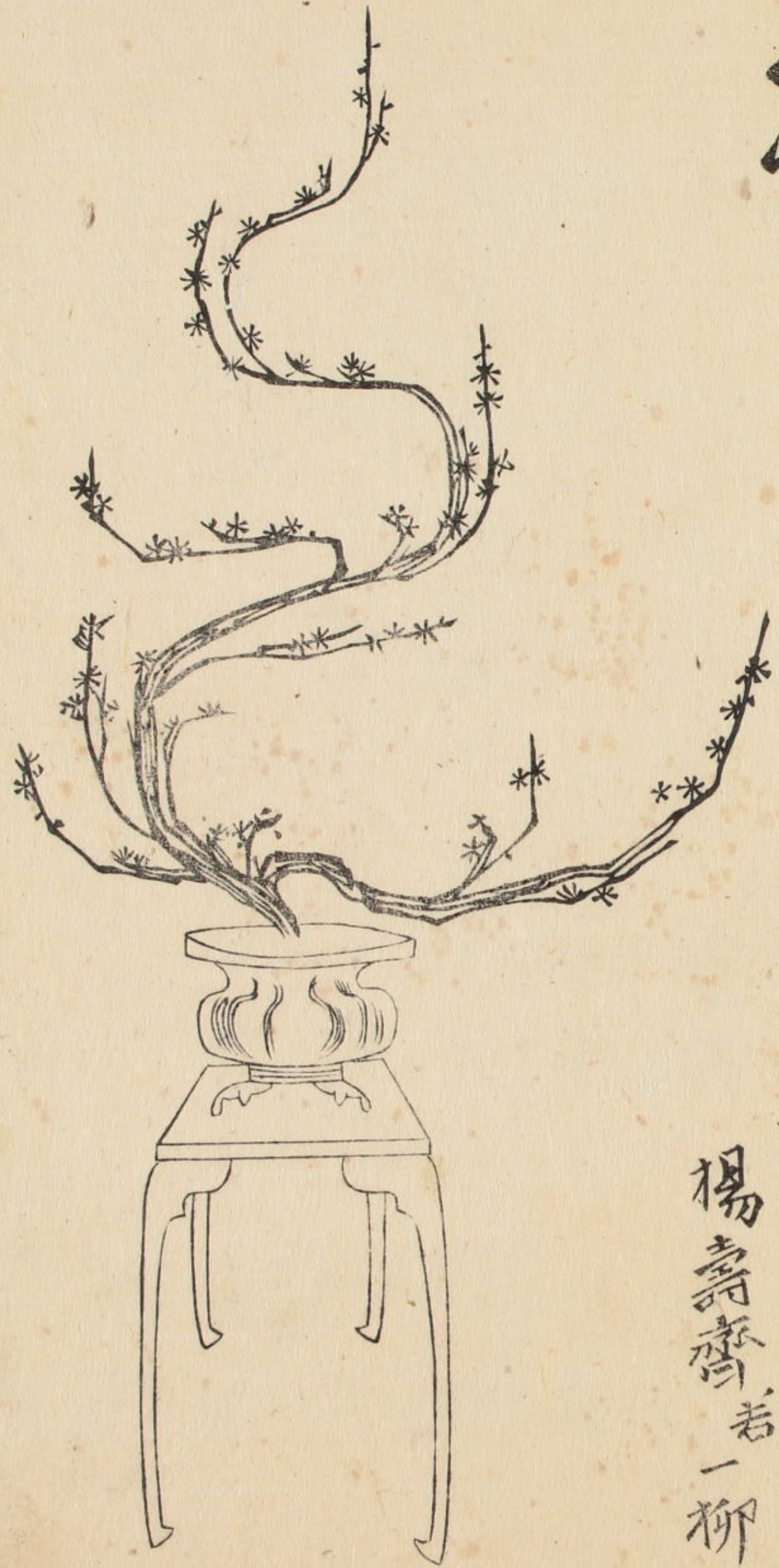
十

春 暮 混 交

不^レ言^レ、加^レ計^レ幸^レ、元^レ月^レ、^レけ^レ多^レ遊^レ月
 燕^レ少^レ幸^レ此^レ秋^レ、^レ月^レ遊^レ、乃^レ上
 藻^レの^レ花^レ、^レ川^レの^レ水^レ、^レ小^レ船^レの^レ水^レ
 ち^レの^レ遊^レ、^レけ^レ、^レ小^レ船^レの^レ水^レ
 枝^レ子^レ遊^レ、^レ秋^レを^レ流^レ、^レ枝^レ子^レ遊^レ
 後^レ、^レけ^レ、^レ小^レ船^レの^レ水^レ
 ち^レの^レ遊^レ、^レけ^レ、^レ小^レ船^レの^レ水^レ

武^ノ山
 亀^ノ季
 静^ノ在
 一^ノ露
 槐^ノ里
 其^ノ友
 公^ノ木

山 城



カズ
 楊 壽 齋 若 一 柳

白梅や郭の氷通すこゝに松
 雪のぬや宮をまゝとて杖を伐
 え徳西歌す何了る扇可難
 背石口の両戸替に鼻の花
 舟空のゆふより多や行く子
 まきまけさうの長し平の峰
 考西故を道きつらすみ形
 此海よりほくと暖きぬ燕子花

魚考
 鶴歩
 壽山
 拜石
 松禰
 碓嶺
 棠功
 素苾

茶らん
 二十丑



下新田
 橋一友

上三

上二

吾と云ふをさすむ 於故にさすむ
 能く是くをさすむ 和くはくをさすむ
 能く是くをさすむ 小くはくをさすむ
 在ゆやさく 掃出にさすむ 和葉
 ちつ性さくや 若くはく 小舟
 夫婦とさすむ 並んや 田植並
 掃除さすむ 何とさすむ 一つをさすむ
 心の色を来すも 初まをさすむ 掃出

文明
 菴石
 竹志
 一扇
 斗運
 一亀
 一秋
 一敬

白梅



忍長野
 自己一派
 舟青

三線のたもと邪たうやをみみ
 折おふ月のこまき時毎々
 襟をよみ子七遊遊衣著る危
 紙を海秤掬い依一百合の花
 手す持て仰山よりおをぬり
 彩り舞只もよいりをくらりか
 ても通薫乃ぬちり傑の先
 う中流のや火おうう庭の内

ワシヤ 楫

閑玉

路秀

水カ 一 暖

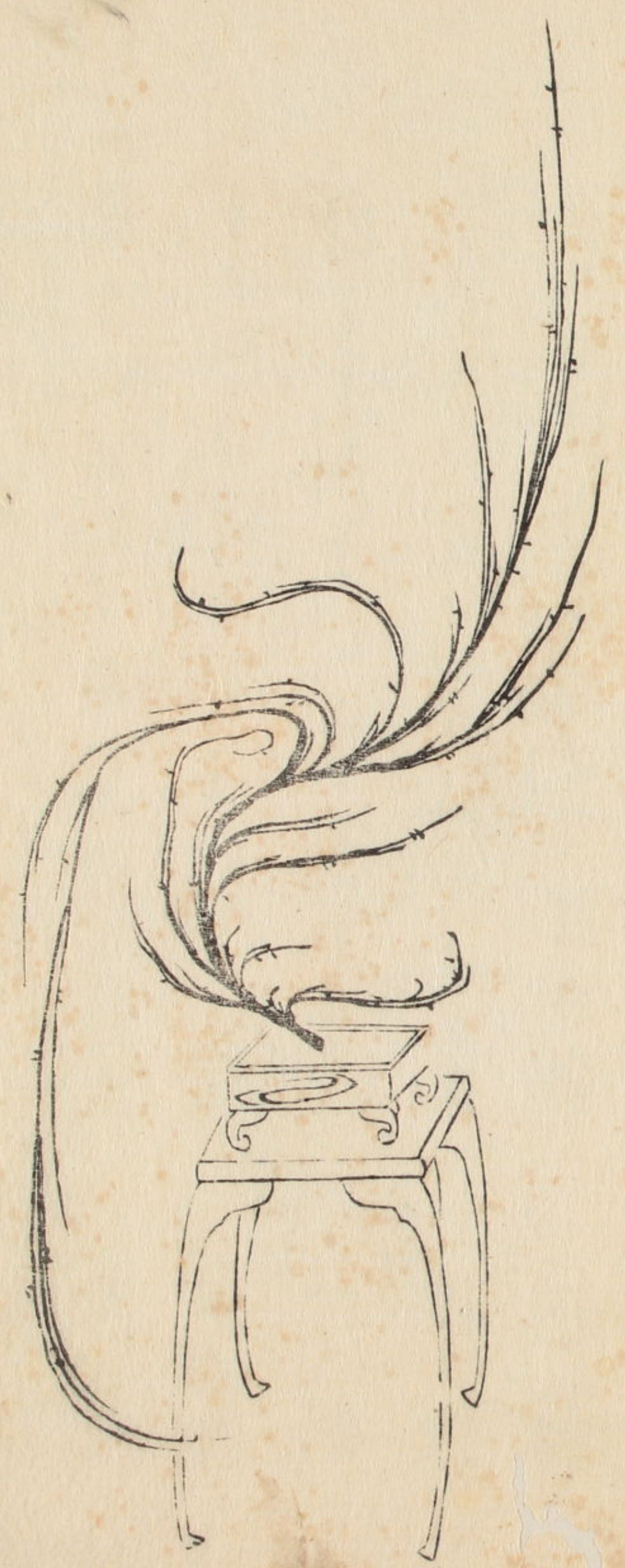
大葉 竹 賀

惟 草

嘆 草

庚 年

冬にしご



カス 玉松齋 壽一 龜



栗橋
十七娘

栗橋
村一長

ころほく 樹のうらみをぬきの
 葉もはなれや 春のあけつ
 雨のきあまのちうのうのう
 如のうまこけくはくやけふ
 降もりのあけぬと 傘月
 入あやと 娘さしませ けさ
 免てい 茶花のうらみか
 舟縁のうらみか 楓の形

琴松
 楓園
 松雨
 康年
 樂之
 我笠
 市月
 迎祥

出なるはあひむさうのふ
 藤のまのまを月う語を危
 忍ををまのう離れや
 鳴るううちりかえりり郭公
 けう琴のまをいあう一紙月
 ねくうまをえをぬ暑か
 糸月や上りてうさ告てま
 春あひ小梅と告りやけさ西月

下サ堵 牙白
 甘ロメキ 竹雅
 スギ戸 秋喜
 徳カ 雞翁
 百間 吾樂
 中こマ 梅枝
 奇石

燕子花 三輪



菅
 堀
 一亭

紅梅



上
新
一
真

上
九

松竹をそかしく月のおぼろさか

中
三
マ

竹山

落合よりつくさなうし情もか

下
三
キ

寛我

踏らん多きおきさきさきしそらか

青湖

うのさるやういそきさきさきさき

如露

合うゆうしそきの唄のうらつそき

池
上

完車

日々おつてせきまのいりきりそらか

荷了

むしゆりそきまのなくききりそら

呉雪

うく桂なくみしそきさきさきさき

忘る尼

上
八

道なきもちたるとぬこてふか
 ほとこは啼く飛弾の薪舩
 子のたやまの月乃伝とる
 所梅や梅論、引、或里の家
 此くもお死るはくみさる
 降雪のまらゆきさるや梅さる
 未結色や虹の中より本をさる
 川たるふおのぬを越く襟か

馬マカ 孝鳥

江エ 伯兮

李井

奔二

可了

日向 輝旌

晝僕

大オカ 林圃

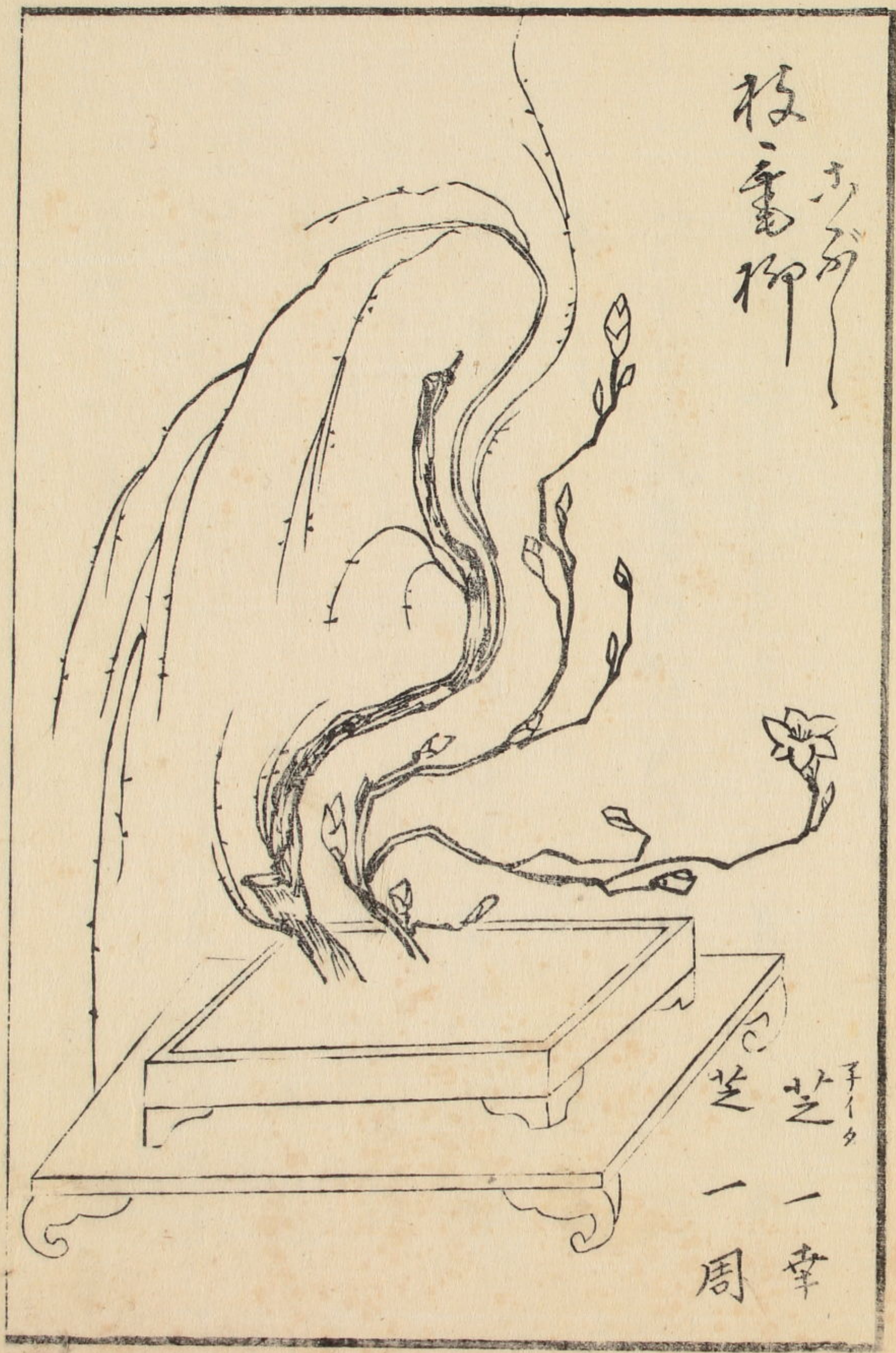


高年丸

二十一巻

戸トカキ 竜壽齋室 一珠

廿一



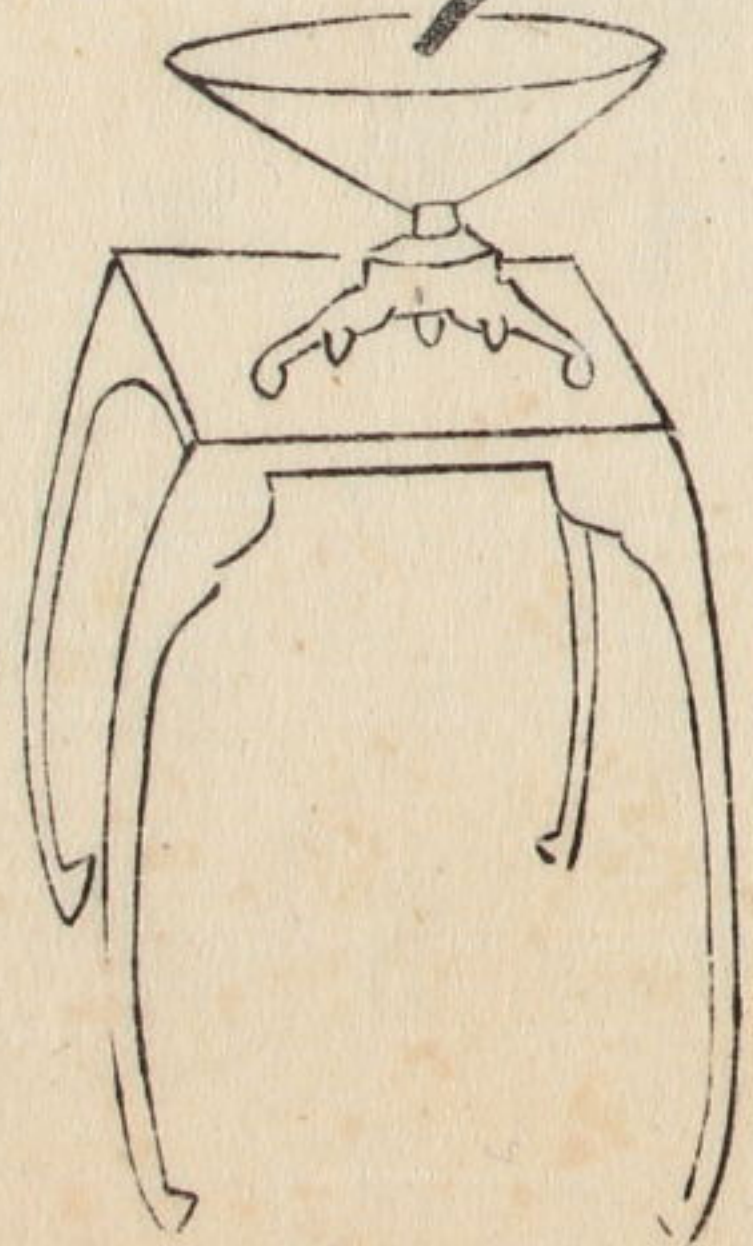
枝
手
柳

手
一
章
一
周

道世とまゝとふれやもつ極
 松よみゆめ多し春乃月
 陸なくくさく雨の降おる形
 吹返す紙い舎秋やちり風
 紙子なくや家まきり水の月
 云とてと志りくおり 春とて
 さし眼くまかきもけき浮葉か
 梅葉は一枝屋根ふりて花色

琴 趣
 松 花 亭
 梅 枝
 寺 谷 里 川
 司 旭
 烏 墨
 青 園
 卓 池

白桃



アヲ川
釈一良

子時茶や郡境の不足なり
 藪匝月皎の如く春うじり急
 焚火一多河系をくく、春の水
 去る空くくアノ見せは昔より
 風並をくくく至車以故老春
 風ききこて、鳥、花、柳、う柳
 山焼く中へ、鳥、花、柳、う柳

飯田下
 玄米
 串作
 宇良
 是龍
 茂旗
 桃依
 安在
 正坡
 石有
 小ハツ林

櫻



止静齋山一壽

水

舟をよそへ去向りたのめもく山	松
みこけや日午去りて枝梢に上	箕田 梧青
降くしふふふふふふふふふ	松園
井のききききききききききき	三首
舟一舟子ゆく人ともりる月の	成田 楚江
多由そ趣向うらや露乃棠	水竹
成るうち算をうつ人并月哉	正佐
うめ折て来ふや下敷くもり	禾木

水

白糸



了川
福壽齋 田一海

明きあすまの動もやま矢の花
 号子あはくおの日うはが
 さしぬのうくてもう拵う形
 似し門を梅とさうまて這入る程
 弁星をうそ来たるもさうまあは
 子の糸い人そ舟たると日じり
 海棠のさうりいそを、遊もさう
 降るや雪をうそあはうに思ひあ

上五
玉

中ノ
之呼

マナ
貞治郎

、
美存女

ヒロタ
一 曉

ムラ
其 旭

キサイ
帆美地福年

、
乙よみ



芍薬
七つん

外田
蟠壽齋
一桃

北七

てふくやうちを傳へる人の中
 極くうらやまの年入やその月の
 養つたるをいれと和じかよきた
 うつ勢やわんのうけりてそのいろ
 さいと遊ぬ人うきえり松の内
 大きふかえりて来はるる舞
 けいのうねる事一返りて病
 修りやて木をさうりぬまの月

五
一
三
文
見
松
守
於
儀

北七

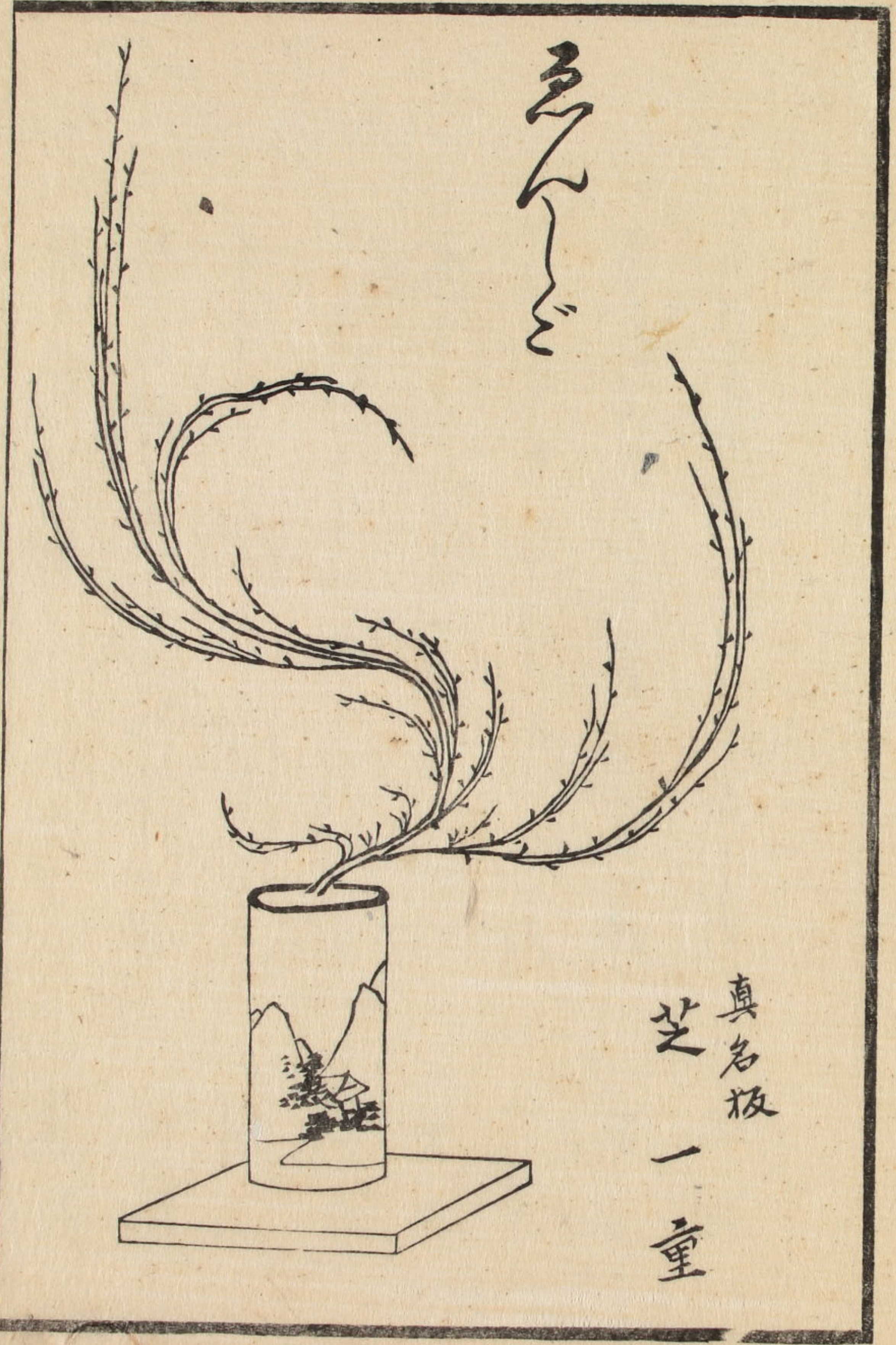
紅若

三本



一 朝門人
驚ノ宮
大 一
就島

松の雪正月らうう後玉中
 啼ゆはしむし俄の陸、か
 号け夫をうらや新のうち
 おまゝおあとも、さうて仕巴りり
 新まゝいすもぬさぬ田植か
 花の香を志をうりよ山のさうか
 水子午来て、い号夫をなく
 花見夢の日とそふしあり急
 梅成
 五山
 澄泉
 玉泉
 巴月
 花朝
 青我
 再青



真名板
芝一重

填次

白くしーまぬ柳の糸一う纏
 糸虫の夕子ほまそ、昇々那
 坊あゝる人のやうき花見が
 志ぬ人子ゆまて張ふ清まか
 志すを、祝ふくまーかささそ
 折ま口のふけふて、梅の花
 幹魚ハまをを、外てやうかまき
 戸極を、浅るあゝる、危をのり

ワカワラ 榮松
 志張
 和水
 川ワラ 左明
 ヒヤリ川 一米
 玄子
 丁知
 庭交

填次

鏡子^{カウマ}のついでに^{カウマ}きりく乃羽^{カウマ}押^{カウマ}か
 けら椿^{カウマ}持^{カウマ}く^{カウマ}る^{カウマ}まの^{カウマ}下^{カウマ}ま^{カウマ}く^{カウマ}は
 舟^{カウマ}持^{カウマ}の^{カウマ}ま^{カウマ}え^{カウマ}ぬ^{カウマ}け^{カウマ}る^{カウマ}つ^{カウマ}く^{カウマ}先^{カウマ}れ
 と^{カウマ}る^{カウマ}風^{カウマ}や^{カウマ}急^{カウマ}く^{カウマ}か^{カウマ}ま^{カウマ}る^{カウマ}餅^{カウマ}の^{カウマ}皺^{カウマ}
 履^{カウマ}千^{カウマ}舟^{カウマ}押^{カウマ}く^{カウマ}き^{カウマ}る^{カウマ}は^{カウマ}予^{カウマ}り^{カウマ}那
 世^{カウマ}く^{カウマ}ても^{カウマ}ぬ^{カウマ}お^{カウマ}く^{カウマ}る^{カウマ}布^{カウマ}く^{カウマ}ん^{カウマ}く^{カウマ}れ
 ち^{カウマ}く^{カウマ}行^{カウマ}く^{カウマ}は^{カウマ}さ^{カウマ}く^{カウマ}茶^{カウマ}の^{カウマ}あ^{カウマ}る^{カウマ}椿^{カウマ}う^{カウマ}那
 む^{カウマ}れ^{カウマ}く^{カウマ}ま^{カウマ}の^{カウマ}門^{カウマ}を^{カウマ}き^{カウマ}と^{カウマ}り^{カウマ}至^{カウマ}く^{カウマ}た

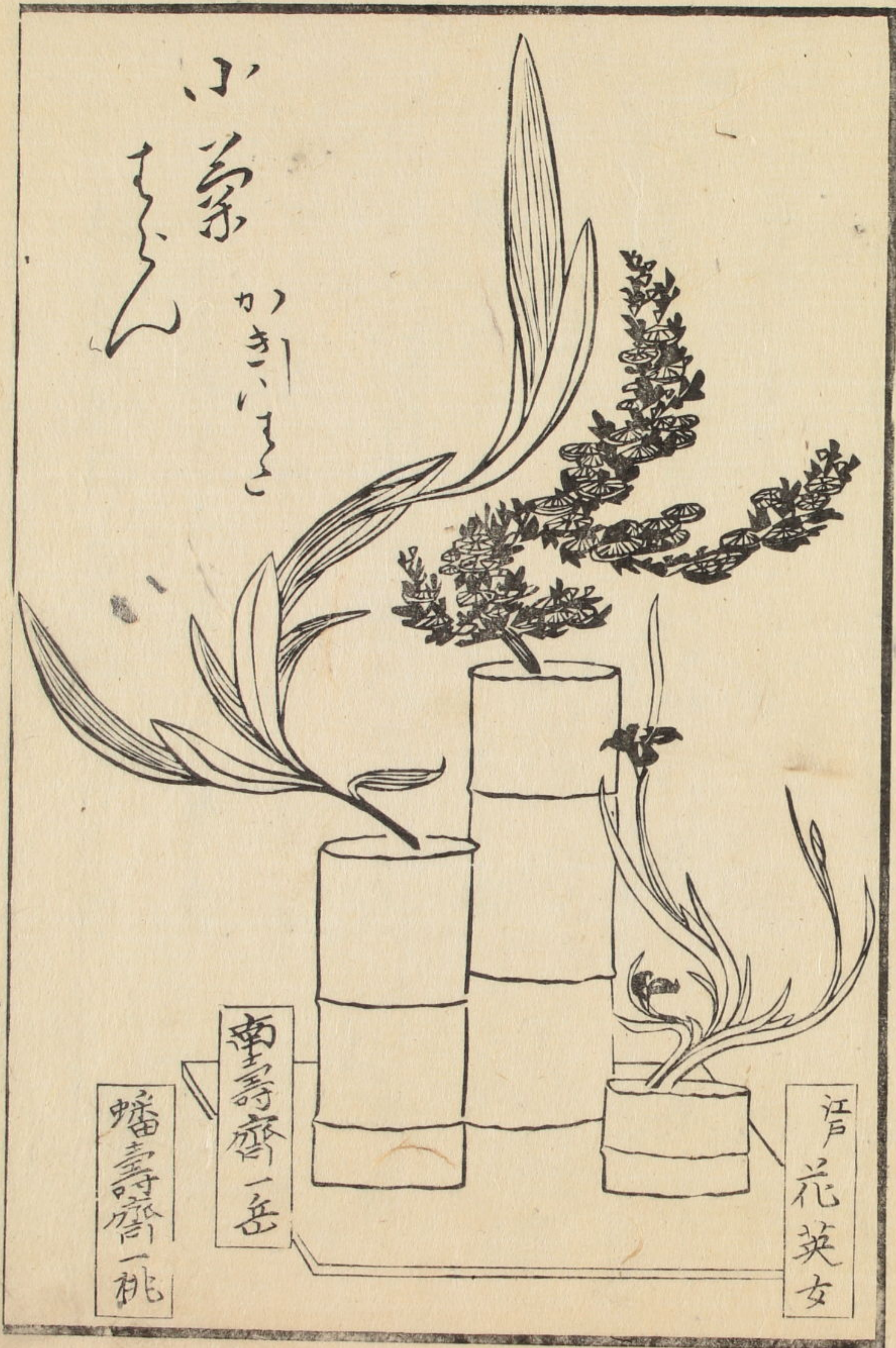
松^{カウマ} 旗
 桃^{カウマ} 份
 拜^{カウマ} 石
 鶴^{カウマ} 歩
 静^{カウマ} 居
 一^{カウマ} 露
 奇^{カウマ} 山
 木^{カウマ} 園

松^{カウマ}
 十一^{カウマ}



松^{カウマ}
 一^{カウマ}清^{カウマ}

十一^{カウマ}



萬葉もさきさき不のしりか
 五六尺田畑離れくう又みうれ
 花と春出しくさきさきさきさき
 戸もてわささき火もひ啼袂疑
 さらさきさき二さきさきさき
 志す美西眼のさきさきさき月おか
 春をさきさきさきさきさきの上
 万葉やもとのさきさきさきさき

武タヒラ 千瑞
トモ小山大男 雪史
ライハ 山雷
アケラ 長呂
 拳石
 石忌
 鳳石
 月貸

鶴もて家西表うつくしや志望し作
 風の来ぬ日いたるる斗程青き
 出ういふや 杉をきくも小半日
 長きり能くもや却てをきく
 狸もぬき糸のうつくし 柿の那
 ち風や杉のまはれあ清見寺
 帰るが名残ハ夏にきく斗程
 今計るるゆゆえぬるんか

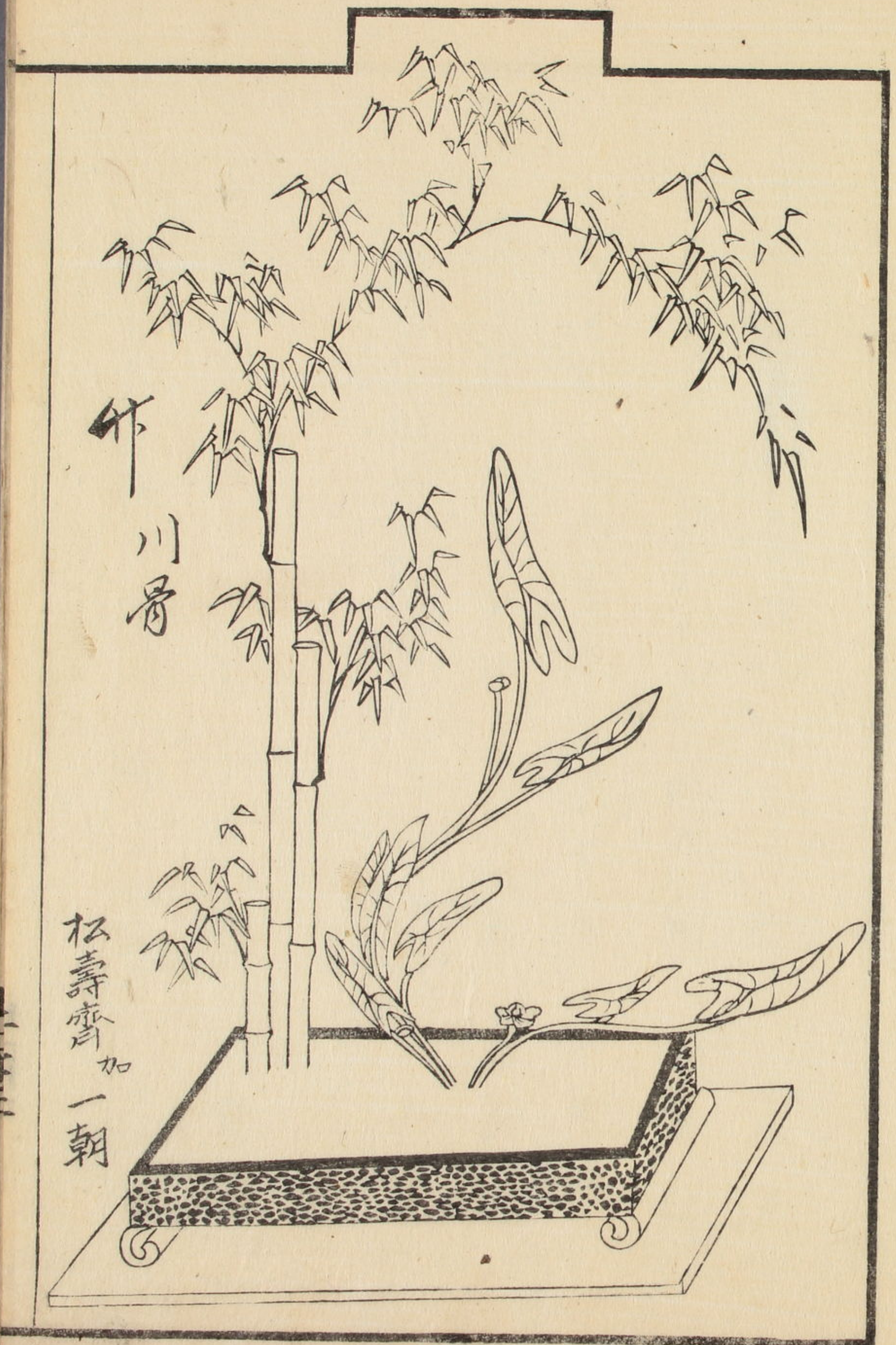
羽生 加七金
 栗川
 葎子
 奇嶺
 吉一
 友之
 梧村
 升脇

志望し



組板
 箱
 一
 茂

水戸



竹
川骨

松壽齋
加
一朝

蟬 或く やまゝく 雨 通む 啼き
 うまゝ 木 通 抄 け 姉 う なり 芳 若 葉
 却 虹 の ら け 又 降 ぬ 皁 月 之 影
 ま ぎ る ち なる ぼ 咲 一 春 の 水
 か ぎ る 一 年 時 分 の 来 たり や 朝 云
 揚 ぎ る 於 於 籠 つ じ 置 る 紫 け 乳
 や ま ぐ 切 を 一 年 け け け け 田 植 け
 空 け 柱 け なく なく なく なく の ね ぎ け

過 卯 十
此のウシ 助 耕
ヒナク 梔 窓
ニヤク 松 月
 ま ぎ る け
 護 物
 田 鳳
 蒼 札

秘了り小町、うらや秋あやめ
秋田うらまの月おきてまゝ累
樂山

雙ちやや、さく、桐苗も小一丈、
咲草

許あや、桂、杉や、うらま
壽瓢

ゆき、つて水をとち、うら、さく、
宇良久

ふ、さ、ま、の、入、ま、さ、さ、さ、く、
名松

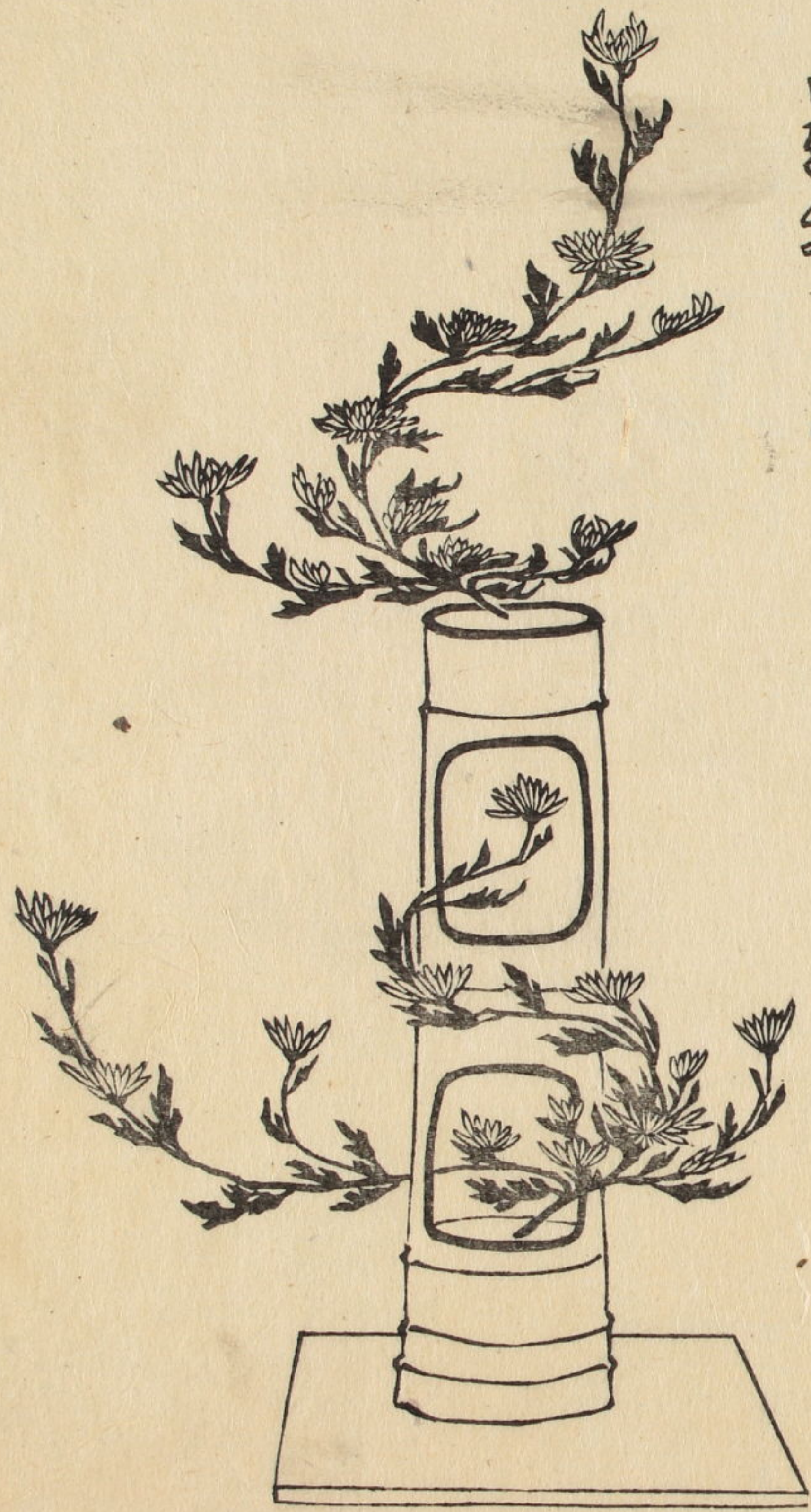
ま、さ、さ、ま、の、入、ま、さ、さ、さ、く、
名松



馬尾草 十五葉

立一徳

立一徳



黄金 十二元
 日紅出 十二元

加須
 旭壽齋 九一也

くさくさい 焚く 掃本 十	あり ちり ちり	三子 州
管 形 月 の 吟 入	柔 ね 可 分	李 水
夕 影 や 内 を 照 々	尾 ぬ 々	風 儀
田 櫻 々 々	面 を き 々 ね	秀 枝
猿 皮 々 行 々	あ 々 々 々	瓢 長
くさくさい ちり ちり	来 々 々 々	壘 五

黄令
三十七日



栗橋
松壽齋
加
一朝

